清澄寺













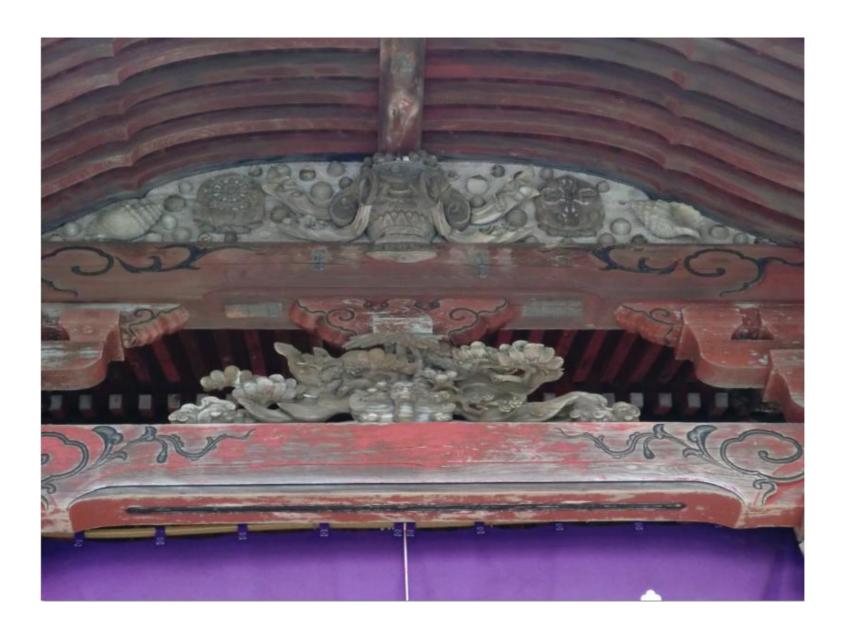


























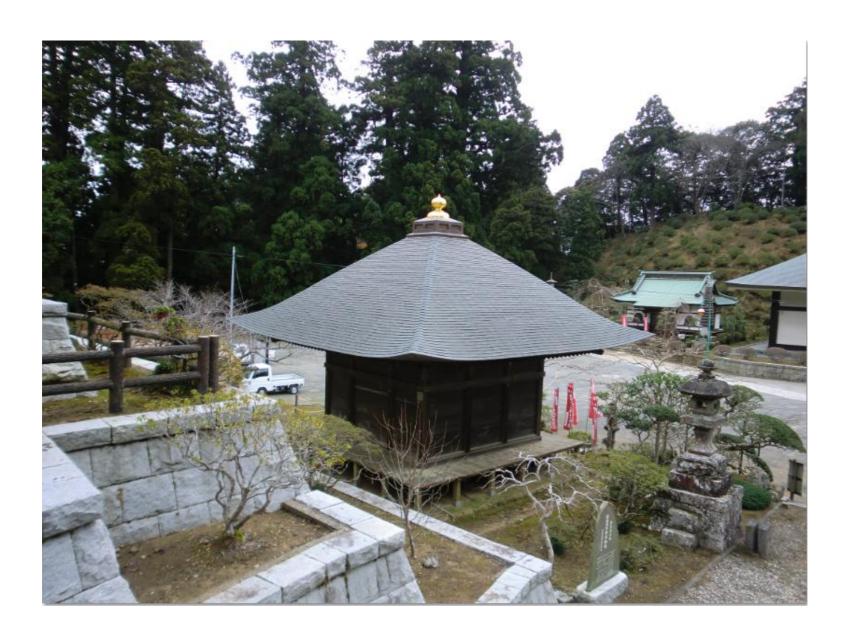












































ここに左甚五郎作の「鎮火牛」があるという

















前方は「清澄の大杉」





















たいった。また、たいたいでは、またいでは、またいでは、ことなく厳然として直立し平然としてあります。 一般に立つ記念碑の表裏にこと細かに記されている建立由来及び建立発起霊感略記はまことに感銘深い文章で殊に文末にこの聖像は二度に亘ったを記述が、文章で殊に文末にこの聖像は二度に亘ったを記述が、文章で殊に文末にこの聖像は二度に亘ったを記述が、文章では、文末にこの聖像は二度に亘ったを記述が、文章で殊に文末にこの聖像は二度に亘ったを記述が、文章が、文章であります。というの意となられております。 ことに感銘深い文章で殊に文末にこの聖像は二度に亘ったを記述されることは当山に参詣する人々にひとしおの感激をおばえさせます。

















手前は報恩殿、その後ろは信育道場

